

令和3年度学校評価 学校関係者評価 まとめ

よくあてはまる 4点
 どちらかといえばあてはまる 3点
 どちらかというあてはまらない 2点
 あてはまらない 1点

A : 4.0~3.4 B : 3.4~2.9 C : 2.8~2.3
 D : 2.2~1.7 E : 1.6~1.0

領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	平均	評価	分野	学校関係者評価コメント
組織	学校運営全般	校内組織の連携(教員のみ)	1	教	各分掌が重点目標を掲げ、機能的な組織の編成や部署間の連携を図りながら、教職員が協働して目標を達成できるよう努めている。	3.1	B	<p><ニーズに応える教育> ○学校経営について保護者が子どもを貴校に入学させてよかったとの評価している点は、貴校における授業のカリキュラムや行事などがニーズにあっているからだと思う。</p> <p>○教職員がB、保護者がAである。中身を見ると「よくあてはまる」の割合が大きく違う。教職員は20%、保護者は約60%である。実践目標の設定が違うことでこの結果がでていることもあろうが、この差の具体的な理由を知りたい。東高校の魅力の再確認・再発見になるかもしれない。</p> <p>○教職員の評価がそれほど高くない。組織としての目標の共有についての取り組みが問われるところである。職員間の日常的なコミュニケーションの工夫が必要である。特に若い人の思いをこれからは大切にしたい。</p> <p><家庭や地域への情報発信> ○情報発信について保護者のニーズ(どのような情報を掲載することを希望しているのか、頻度)を調査してはどうだろうか。</p> <p>○保護者の評価が低い。わかる気がする。ホームページなど放置されている部分がある。学校外の人は割とホームページから情報を得たいと思っている。</p> <p><キャリア教育> ○キャリア教育の企業訪問に関して、コロナ禍の為実際に足を運んで体験することができなかったことで、保護者側から低めの評価がついたのではないかと。リモートで行われたが、さまざまな分野を自分の目で見て実体験することは今のご時世難しいかと思う。</p> <p>○今日的な多様性を反映しているか、という問題がある。進学校では職業の多様性への認識が狭い。最近では起業する若者が多い時代である。</p> <p><進路指導体制の充実> ○意外と評価が低い。今でも偏差値中心の進路指導だと思うが、やはり多様性へ積極的に向かうべき空気が反映されているともいえるのか。</p> <p><ハラスメント対策(いじめ防止)> ○6番「いじめ防止」と9番「生徒会活動」は保護者の「よくわからない」が約2割ある。いずれも校内で完結することが原因ではないかと思われる。学校側のコメントに「保護者への認知度は不十分」とか「コロナが原因」との分析であるが、「いじめ」などは極力、保護者と教職員の共通認識が必要のように思う。</p> <p>○いじめの実態把握へ積極的な姿勢があるかということである。</p> <p><地域に奉仕する心の育成> ○地域に対する奉仕についてはコロナ禍のため、なかなか難しいと思うが、清掃や地域に役立つモノづくりを検討してはどうだろうか。</p> <p>○教職員の「よくあてはまる」が約15%と低いのが気になった。地域等の関係が形式的になってはいないか、次回も含め、一度足元を見つめ直す必要があるかもしれない。</p> <p>○低評価である。実はこのあたりのことが、これからの時代問われるのだが。地域社会の状況に目を向ける教育を実践してほしい。社会を支える一員であるAgency(OECD Education 2030)の考え方が問われる。</p> <p><生徒会活動の活性化> ○姫路東高校がこのあたりはしっかりしているように思うが、あまり目立つことをしてはいるからだろうか。</p>
			2	教	本校は、生徒・保護者の期待やニーズに応える教育活動を行っている。	3.1	B	
組織運営	学校運営全般	ニーズに応える教育	保	姫路東高校に入学させてよかった。	3.5	A		
			3	教	ホームページや年次通信等を通じて、家庭や地域に情報を発信している。	3.2	B	
情報提供	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	保	本校は、ホームページや年次通信などを通して、さまざまな情報を提供している	2.8	C		
			キャリア教育	進路指導	キャリア教育の推進	教	本校は、キャリア教育(職業が「インターン」・企業訪問など)が充実している。	
保	本校は、キャリア教育(職業が「インターン」・企業訪問など)が充実している。	3.1				B		
進路指導体制の充実	教	本校は、将来について考え、進路目標を明確にするための情報が学校から提供されており、生徒の進路希望に応じた指導を行っている。		3.1	B			
	保	本校は、将来について考え、進路目標を明確にするための情報が学校から提供されており、生徒の進路希望に応じた指導を行っている。		3.2	B			
生徒指導	生徒指導	ハラスメント対策(いじめ防止)	教	本校は、いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。	3.3	B		
			保	本校は、いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。	3.1	B		
	学校行事のあり方	教	本校は、学校行事の内容が充実しており、学校生活を豊かにしている。	3.0	B			
		保	本校は、学校行事の内容が充実しており、学校生活を豊かにしている。	3.0	B			
地域連携	特別活動	地域に奉仕する心の育成	教	本校は、地域貢献活動やボランティア活動等への積極的な参加を促し、地域に奉仕する心を育成している。	2.8	C		
			保	本校は、地域貢献活動やボランティア活動等への積極的な参加を促し、地域に奉仕する心を育成している。	3.1	B		
		生徒会活動の活性化	教	本校は、生徒会行事の運営に関して、生徒会を中心にして、生徒が積極的にかかわる機会をつくっている。	3.1	B		
	保		本校は、生徒会行事の運営に関して、生徒会を中心にして、生徒が積極的にかかわっている。	3.1	B			

領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	平均	評価	分野	学校関係者評価コメント
教育課程	学習指導	個に応じた丁寧な指導と指導方法・形態の工夫	教	本校は、少人数や習熟別などのきめ細かい学習指導を行い、学習内容の定着に努めている。	3.2	B	教育課程	<p><学習指導></p> <p>○授業を参観したときには、丁寧な指導が行われていると感じた。同じクラスであっても個々に合わせて少人数で指導されていた。</p> <p>○引き続き、生徒の希望に沿ったきめ細かい指導の継続を期待する。</p> <p>○国際理解教育の機会を増やしてはどうか。海外校との交流だけでなく、国内の多文化共生に関する授業を取り入れるなど。</p> <p>○もっと評価されてもいいのではないかと思う。高望み感なのだろうか。ただ、現状で高止まり感(指導状況)があり、何か吹っ切れないのだろうか。これについては議論する必要がある。SSHの活かし方もここにある。学習評価の考え方にしても新しくする必要がある。</p>
			保	本校は、少人数や習熟別などのきめ細かい学習指導を行い、学習内容の定着に努めている。	3.1	B		
		評価方法の創意工夫	教	各科目の学習評価は適切に行われている。	3.2	B		
			保	各科目の学習評価は適切に行われている。	3.2	B		
資質向上	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	教	各教科。科目において学習内容や指導方法について研鑽し、授業改善や指導力向上に向けて取り組んでいる。	3.3	B	<p><評価方法の創意工夫></p> <p>○教員研修など積極的で、「評価」についての研修会の講師を務めたが、割と皆さん熱心だったような感じである。ただ、若い人中にもっと改善へと動かないと新しくはならないだろう。</p>	
			保	本校の学習指導は充実しており、教員は生徒の学力向上のために熱心に指導している。	3.3	B		
特色教育	SSH事業の活用	SSH事業への取組	教	本校は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業を活用し、幅広い教育活動を展開している。	3.4	B	SSH	<p><SSH事業></p> <p>○我々の時代では考えられない素晴らしい取り組みであると思う。一層この事業を進め行ってほしい。ただし、私見であるが、現在の科学はどうも目先の目標のみにとらわれているように思う。いろんな素晴らしい成果、結果を受けても、時として間違った活用が見られる事例が多いように思う。そのような意味で「思考力・判断力・表現力」を、より広い視点で捉えこの事業に取り組んでほしい。</p> <p>○SSHの事業が可視化され、やっている実感はあるようだ。保護者にも見えているようで、いいと思う。これがさらにSSHの効果として日常的に実感できることがあればいいと思う。</p> <p>○受験を控える3年次生SSH活動がどれくらいの割合を占めるのか2年次の時点ではわからないが、通常の授業とバランスよく進むことを望む。</p>
			保	本校は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業を活用し、幅広い教育活動を展開している。	3.3	B		
	課題研究	問題解決型学習の展開	教	本校は、生徒が探究活動に取り組むことで、探究活動を通じて思考力・判断力・表現力を高める教育を行っている。	3.1	B		
			保	本校は、生徒が探究活動に取り組むことで、探究活動を通じて思考力・判断力・表現力を高める教育を行っている。	3.2	B		
<p><課題研究></p> <p>○やろうとしている実態がついてこないのではないか。課題研究、探究学習ではよくあることで、これはSSH事業とともに、この時だからこそ再考、再検討が必要と思う。</p>								

領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	平均	評価	分野	学校関係者評価コメント
安全管理	防災教育	防災危機意識の向上	15	教 学校は、防災避難訓練等を計画的に実施し、生徒の防災と安全に対する意識を高めている。	3.2	B	各教育活動	<p><防災教育> ○保健管理については、生徒個人が予防に努めていることがわかり、実際そうであると感じている。</p> <p>○あまりよくない。地域連携など考えてはどうか。</p>
			保 学校は、防災避難訓練等を計画的に実施し、生徒の防災と安全に対する意識を高めている。	3.1	B			
保健管理	保健・安全教育	実践的な保健・安全教育への取組	16	教 学校は、日常的に感染症予防に努め、衛生的で、安心で安全な学校づくりをめざしている。	3.5	A		<p><保健・安全教育> ○コロナ禍でよく対応されていることがわかる。</p>
			保 学校は、日常的に感染症予防に努め、衛生的で、安心で安全な学校づくりをめざしている。	3.2	B			
人権教育	人権教育	人権教育の計画的推進	17	教 本校は、教育活動を通じて命や人権を大切にする態度を育てており、生徒は安心・安全な学校生活を過ごすことができる。	3.1	B		<p><人権教育> ○人権、特に「いじめ」に関しては外から見て本人が悩んでいることを見つけることは難しいと思う。これに関しては日頃から家庭内でわが子と会話することで接点をもち、ちょっとした変化を見逃さないのが一番であると思う。</p> <p>○現実的な課題として、この認識がないとこれからのグローバル社会に生きていけない。ただ日本人はこれがゆるい。</p>
			保 本校は、教育活動を通じて命や人権を大切にしており、生徒は安心・安全な学校生活を過ごすことができる。	3.2	B			
教育環境	ICT教育の導入	ICT機器の活用	18	教 本校は、ICT機器を活用し、授業内容の充実や学習の効率化を図っている。	3.3	B		<p><ICT教育> ○先日、姫路東高で探究学習にパソコン（タブレット）を入れて動的経過を把握したが、教員・生徒もよく対応してくれた。可能性がある。</p> <p>○ICT教育については親は実際のところを見ていないので低評価になったのではないと思う。</p>
			保 本校は、ICT機器を活用し、授業内容の充実や学習の効率化が図られている。	3.1	B			
国際理解	国際理解教育	国際交流の推進	19	教 本校は、国際交流の機会を提供し、広い視野で物事を捉えられる生徒を育成している。	3.2	B		<p><国際理解教育> ○この分野でグローバルな視点の形成を望みたい。</p>
			保 本校は、国際交流の機会を提供し、広い視野で物事を捉えられる生徒を育成している。	2.9	B			
環境整備	環境整備	環境整備・施設管理維持	20	教 学校の施設設備の管理がなされており、学習に適した環境が整備に努めている。	3.0	B		<p><環境整備・施設管理維持> ○割ときちんとされていると思う。</p> <p><全般的に> ○生徒の将来を切り拓く授業づくりに励んでほしい。</p>
			保 学校の施設設備の管理がなされており、学習に適した環境が整備されている。	3.0	B			
外部対応	案内・対応	窓口・電話対応	21	教 来訪者への案内、外部からの電話に対し、丁寧にわかりやすい対応をしている。	3.4	B		<p>○問題なし</p> <p>○継続して取り組んでほしい。</p>
			保 窓口や電話の対応は、丁寧にわかりやすい。	3.2	B			
		各種案内への対応	22	教 就学支援金や各種奨学金等の案内や、窓口手続きの説明は、わかりやすく丁寧にしている。	3.4	B		
			保 就学支援金や各種奨学金等の案内や窓口手続きの説明はわかりやすく、丁寧である。	3.1	B			